

第19回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成27年5月21日（木） 18:30～20:30

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、松本副委員長、川添委員、小嶋委員、横山委員、田中委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：報告書に関する検討について

※地域で活動されている方へのヒアリングの内容については、個人情報が含まれるため、非公開とさせていただきます（多摩市情報公開条例第7条第2号に該当）。

□ 開会

委員長 前回の自治推進委員会後に、委員の皆様にはご都合の良い日程で参加いただきながら、①映画「たぬきがいた」（4/22）、②聖ヶ丘一丁目自治会（4/28）に対して、インタビューを行っていただいた。

まずは、事務局から、事例検討の結果について報告をお願いする。

事務局 インタビューの結果について、事務局から報告した。

委員長 これらのインタビューを振り返り、報告書へ掲載すべき内容について議論していきたい。

事務局 インタビューの内容について、議論を行った。

委員長 続いて、報告書の中身について、確認していきたい。これまでの議論の結果を踏まえて、事務局が、報告書の作成イメージ（案）を作成している。説明をお願いしたい。

事務局 資料1「報告書の作成イメージ（案）」等について、事務局から説明した。

副委員長 1ページのタイトルについては、いくつか考え方のバリエーションがある。①自治という言葉を出す、②自治という言葉のカタカナ、ひらがなを使って表す、③自治を違う言葉（「まちづくり」、「自主活動」、「市民活動」などといった言葉）で表す方法である。

委員長 自分達のまちは自分達でつくっていくなどと、自治という言葉をやわらかく捉えても良いかもしれない。また、メインタイトル、サブタイトルをつけ、サブタイトルで自治という言葉を入れても良い。

副委員長 キーワードとしては、「手づくり」である。自分達で作っていくニュアンスが加わると良い。また、「つながり」、「ひろがり」などもキーワードである。

委員長 その他にも、「まち」、「市民」などがキーワードとして挙げられる。

副委員長 5ページの「きっかけは〇〇から」の部分に、この冊子を初めて読む人でもわかりやす

いように、あらずじやこのストーリーを作った背景を書いた方が良い。

委員 6ページの「おや？」というのは、きっかけの部分である。その部分をもう少し強調したい。また、全体を通して、ひらがな、漢字等の表現を統一した方がよい。

副委員長 まとめの部分について、18、19ページでは点―線―面という表現で、活動の広がりを強調している。一方、36、37ページでは、ホップ―ステップ―ジャンプという表現で、活動の段階性を強調している。どちらかに統一する必要はないか。

委員長 活動が広がるイメージを読者に伝えやすくするため、どちらも掲載した方が良いと思う。また、39ページ以降の巻末資料は、データブックのような位置付けのため、副題として、「たまお君が集めたデータ集」などと記載してはどうか。

委員 巻末資料として、小学生や中学生のたまり場情報や、子ども達が悩んだりしたときの相談先も掲載できると良い。

委員長 子ども達のたまり場として、児童館やコミュニティカフェなどを掲載してはどうか。また、子ども達の電話相談先として、NPO法人チャイルドラインなどを掲載してはどうか。行政情報・民間情報の両方を載せられないか。

委員長 それでは、本日の議論に関してはこれまでとしたい。次回の委員会までに、各委員にはこの報告書冊子を読んでお気づきになった点等があれば、事務局へご連絡いただきたい。次回の委員会は6月5日に開催する。

次回は、報告書（案）について検討する。これで第19回委員会を閉会する。

□ 閉会